

いと思われま。

実は、ここをやり始めてまだ2年ですが、その前は横浜で8年ほど診療していました。そこでは1日に150人~200人の患者さんを診ていました。しかし、そのような状態だと何もお構いなしになってしまいます。患者さんにほとんど何も説明できず、朝から晩まで1人に3分も時間をかけられないで、ずっと流していかなければなりません。

それで、通常患者さんの数としては逆に少ない場所を選んで、新しく開業したのです。自分自身の診療目的として、コストの負担が多くなるかもしれませんが、手術を求めている人やある特殊な治療を求めている人の手助けをしてあげたいと思っていたからです。鼻がどうしても詰まってしまう、蓄膿症もなかなか治らないが、入院するような手術はしたくないという人たちの手助けです。

花粉症の治療法に 完全なものはない

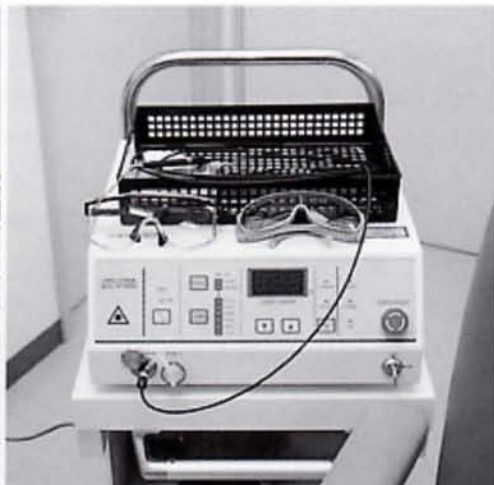
—実際の手術の手順はどのようにするのですか。

笠井 まず、鼻粘膜に濃度の薄い粘膜麻酔と血管収縮作用の薬液を混ぜたスプレーをします。次に濃度の濃い麻酔液を浸した綿花片を数枚、レーザー治療する側の鼻腔内に挿入し、粘膜表面の塗布麻酔を行います。そのまま15分~20分待っていただき、レーザー治療に移ります。

実際のレーザー治療に際しては、麻酔が完全であれば痛みは全くありません。ジリジリという粘



炭酸ガスレーザー



半導体レーザー

膜が焦げるような小さな音とわずかな刺激だけです。レーザー治療は片側5分程度で、両鼻でも10分程度で終了します。当院では基本的に片側を行ったら、1週間程度日をあけてからもう片側を行うのを原則にしています。というのも、いっぺんに両方やると、2、3日は確実に鼻が詰まってしまう、眠ることもできないということがあるからです。また、片側ずつ手術したほうが、苦しくないのかえて通院の回数も減ります。

術後は、炎症性反応として一時的に2、3日は鼻水や鼻づまりの症状がでます。その後かさぶたができるのでむやみに取らないように注意が必要です。それが過ぎれば鼻炎の症状が改善されていきます。レーザー治療は、特に鼻づまりの改善効果が高く、安全な治療法といえます。

また、レーザーのほかにもラジオ波凝固治療というものがあり、それは肥厚した粘膜下組織の縮小に非常に効果的な治療法です。

—レーザーとラジオ波凝固治療の使い分けはどのようにされているのですか。

笠井 最初は無条件に炭酸ガスレーザーをやってもらっています。それが一番浅い層に熱を加えられるからです。それで1回、あるいは2回やってみて、ちょっと効果が薄いなというときに、半導体レーザーといって、もう少し粘膜の中に浸透するようなタイプのものを使い、それでも駄目なときにラジオ波電気凝固装置を使用しています。ラジオ波凝固治療は表面だけをやるという装置もあるのですが、当院の場合は粘膜の下に電極を差し込むような形で、粘膜の中をギュッと縮める操作のできるものなのです。

まずは鼻粘膜の表面を処置し、それでも症状の著明な改善が得られない場合は、下甲介粘膜の切除や下甲介粘膜下の処置を行うのが一般的です。

—手術を行っても薬を併用するのですか。

笠井 花粉症は手術して治るものではありませんから、併用というよりもいろいろな治療法を組み合わせていくということです。アレルギーの治療法というのは、薬物療法、手術療法、温熱療法、免疫